

## 石原慎太郎氏よ、己が欲さざるものを人に施すことなかれ

山梨学院大学教授 熊達雲

東京都知事石原慎太郎氏の名前は中国語の発音「石猿屎太郎」と似通い、それを以て彼を呼ぼうと呼びかける人がいれば、当人はそれをよしと喜ぶとは思わないし、周りの人もその呼びかけ人に蔑視するまなざしを送るだろうと想像する。

しかし、『朝日新聞』2012年3月22日の記事によると、石原慎太郎都知事は21日、首都大学東京の卒業修了式で卒業生らに向けて「言っとくけど諸君ね、中国のこと『シナ』で言わなきゃダメだよ」と求めたと報じられた。その理由としては英語や仏語などで中国を意味する言葉が「シナ」に類する音であることなどを根拠に挙げたという。正直に言うと、その記事を目に接すると、また吠えたかと無視しようと思った。ただ、静かに考えたら、繰り返して中国を侮る常習犯に対し、ご本人や日本のために何か言っておいたほうがよいと思いなおした。

人には名前が付けられている。普通は他人がその人を称呼する場合に、その当人が使用している名前を使う。国も同じである。どの国でも国名が付けられている。他国がその国を呼ぶとき、その国名または愛称を使うのは普通であろう。これは他人、他国に対する最低の儀礼で、人間同士、国家同士の平和的な付き合いができる最小限のルールと思われる。われわれ人間はこのような最低礼儀、最小限のルールさえ遵守しなければ、世界はいったいいかなるものになるかが想像しかねない。

1945年までの日本は韓国の国民に氏名改正を強制し、中華民国の国名を抹殺しシナと呼びまわり、アメリカとイギリスを畜生英米と連呼するといった栄誉とは思わない歴史があった。その結果、ナチドイツ、ファシスのイタリア以外、ほとんどの国が日本の敵対国となってしまう、1945年の日本戦敗に至ったのである。その歴史的な教訓は1300万人の都民を持つ首都東京の知事が知らないことはなかろう。石原慎太郎氏は執拗に中国をシナに呼び、中国国民の感情に頻繁に傷害を与え、いったい何を求めようとするのか。中日関係を1945年以前の局面に戻し、中国を勝手気ままに蹂躪しようとするのだろうか。これは多分無理だと言いつける。

個人の好き嫌いで他人、他国を乱暴に取り扱うなら、精々個人の人格の問題で、彼を相手とせず無視すればよいのである。人格欠格者と論争するなら本人も同程度のものかと思われるからである。しかし、石原氏は1300万人の東京都民からの支持があるかと錯覚して、知事という公職を利用して首都大学東京の卒業生に対し公式に中国をシナに呼べと要求することは看過してはならない次元の問題である。

石原氏は中国政府、中国の政党ないし一部の中国国民に対し不満があるかもしれない。それを名指して具体的な事例を挙げて非難すれば結構なことだ。しかし中国国民に対する無差別な攻撃はアルカイダによる無差別なテロに相通ずるものがあるのではないだろうか。

「己が欲さざるものを人に施すことなかれ」と孔子は言う。それをもって石原氏および石原流に捧げたい。期待はしないが、言いつばなしだけでなく、聞く耳も持ってほしい。